



感動価値創造 magazine Xi[sài]

2025

04



Happy Industry

プリネクトタッチフリー： 未来の印刷ワークフローが、今ここに

印刷業界の効率化とコスト削減を同時に実現する革新的なソリューション、それがハイデルベルグのプリネクトタッチフリーです。現在、印刷業界は人材不足や多品種小ロット生産の増加、そして厳しいコスト競争という課題に直面しています。こうした状況に対応するため、drupa 2024で発表されたプリネクトタッチフリーは、日本での販売前でありながら次世代のワークフローとして注目を集めています。

従来、印刷の生産現場では、経験豊富なスタッフが手作業で各機械への仕事を割り振ることが一般的でした。しかし、労働力の減少により1シフトあたりの印刷ジョブの数は増加し、印刷部数はますます小ロット化しています。その結果、手作業による管理が困難になり、スタッフの負担も増大。さらに、印刷会社はコスト削減や利益確保のプレッシャーに直面し、人の手に依存した生産体制の持続が難しくなっています。

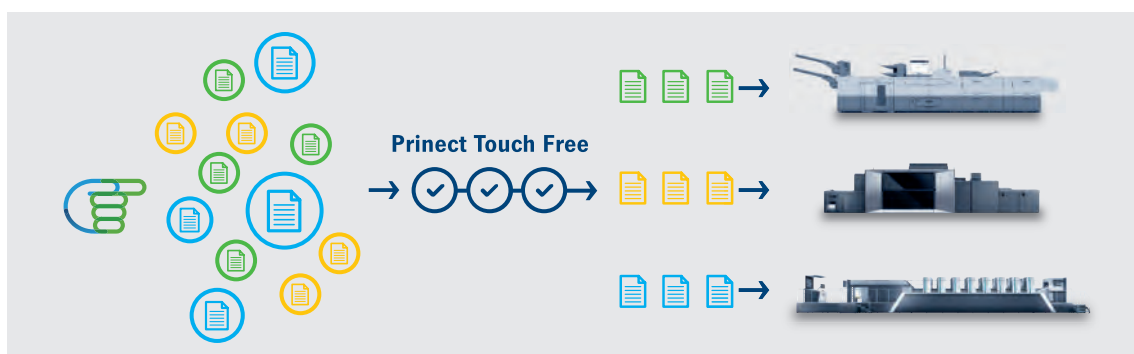
このような業界の現状を打破するために開発されたのがプリネクトタッチフリーです。プリネクトタッチフリーは、AIを活用した自動ワークフローにより、オフセット印刷機とデジタル印刷機の最適な割り振りを瞬時にを行います。大ロットの印刷にはオフセット、小ロットのジョブにはデジタル印刷を適用し、各設備の稼働を最大限に活用。これにより、従来の手動での振り分けを不要とし、迅速かつ無駄のない生産を可能にします。

しかし、プリネクトタッチフリーの革新性は単なる印刷機の自動選択にとどまりません。プリネクトタッチフリーは、工場全体の生産プロセスを包括的に最適化します。AIがジョブの特性を分析し、機械の切り替えや用紙交換の頻度を最小限に抑えることで、後工程の効率も大幅に向上します。また、機械トラブルの発生や人員不足によるスケジュールの乱れにも柔軟に対応。突発的な問題が生じた際には、AIが自動的にスケジュールを調整し、影響を最小限に抑えます。

プリネクトタッチフリーがもたらすのは、単なる作業効率の向上だけではなく、印刷業務全体の自動化と最適化です。これにより印刷会社は人的リソースの制約を受けることなく、安定した品質と高い生産性を確保できます。加えて、コスト削減と納期短縮の両立を実現し、業界の新たなスタンダードを築くソリューションとなるでしょう。

ハイデルベルグのプリネクトプロダクションマネージャー、さらにdrupa 2024で発表された新しいプリネクトタッチフリーは、印刷業界の未来を担う革新的なワークフローです。自動化された生産プロセスにより、高精度かつ効率的な印刷を実現し、現場の課題を解決します。今こそ、次世代の印刷ワークフローを導入し、新たな競争力を手に入れませんか？

ご興味のある方は、ぜひハイデルベルグ・ジャパンの
営業担当者までお問い合わせください。



ハイデルベルグ・ジャパン株式会社

〒140-8541 東京都品川区東品川3-31-8 TEL(03)5715-7377
www.heidelberg.com/jp

HEIDELBERG

LITHRONE GX/G

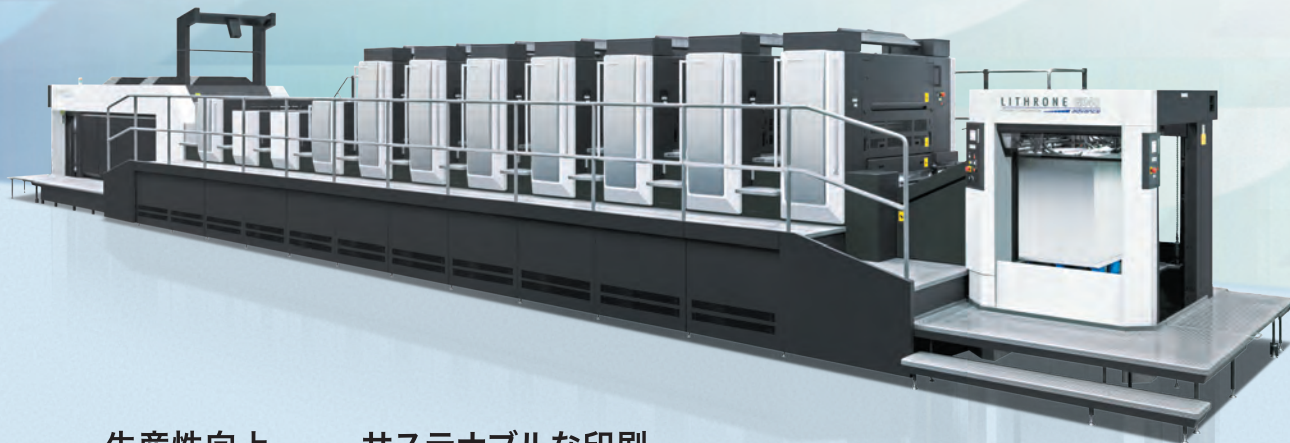
advance

EX Edition

リスロンGX/Gアドバンス EXエディション 生産性とサステナビリティの新基準

世界最高クラスのROI*¹を誇り、全世界での導入が進むオフセット枚葉印刷機、リスロンGX/Gアドバンスシリーズ。KOMORIはさらなる生産性向上とサステナブルな経営を実現するため、革新的な新機能を搭載した新しいリスロンGX/Gアドバンスシリーズを開発しました。最新のプリントテクノロジーを駆使し、エネルギーコストの抑制と印刷オペレーターの作業効率向上を実現するリスロンGX/Gアドバンスシリーズは、ビジネスを新たな次元へと引き上げます。

*¹ 投資収益率 (Return on Investment)



生産性向上



サステナブルな印刷



Photo: GLX-740A

※写真のモデルはオプション仕様を含んでいます。

KOMORI

株式会社 小森コーポレーション

〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋3-11-1 Tel. 03-5608-7806(代表)

おクルマのご購入をお考えの皆様へ！

お車購入の際は
事前にご一報ください。

東京海ジョー



- 全メーカー・全系列対応します！
- 商談後にお断りになることも自由です！
- 日頃付き合いのあるディーラーでもOK！
- 新車・中古車どちらもご相談ください！



自動車販売店とご商談を開始する前にご相談ください。



東京海上日動 車両情報センター フリーダイヤル 0120-086-590

※営業時間 9:00～17:00 土日祝日休業 ※全印工連の組合員である旨お申し出ください！ 併せてご連絡先、購入希望の車種などお伝え下さい。

あなたのための、DXでありたい。

DXという言葉がなかった時代から、
デジタルでビジネスの仕組みを変えてきた大塚商会。
テレワークやAIの活用、紙文書の電子化など、
新しい働き方を時代に先駆けて自ら取り入れ、
体感し、お客様に提案してきました。
あなたのビジネスの現場で、
ほんとうに役に立つ生きたソリューションを。
それが、大塚商会のめざすDXです。



あなたのビジネスに、大塚商会の提案力と対応力を。
<https://www.otsuka-shokai.co.jp/dx/>



 **大塚商会**

株式会社大塚商会 東京本社：〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4 札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡

CONTENTS

Interview	印刷ビジネスの新エコシステム ITと結び、今までにない価値をつくる …	6
全印工連 News	……………	12
全印工連 創立70年の歩み	1945年～1957年(昭和20年～32年) ……………	14
第18回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション受賞作品	……………	16
共創パートナー企業 ソリューション提案 働き方を変える。ビジネスを変える。 POWER EGG 3.0 ……………		21
工組紹介	高知県印刷工業組合 ……………	22
全青協	永らくお世話になりました ……………	23
労務	雇用保険制度 2025年4月から「出生後休業支援給付金」を創設します ……………	24
令和6年度 下期地区印刷協議会開催結果	……………	25
全国の印刷関連イベントのお知らせ	……………	25



【本号の表紙】

皿鉢料理(さわちりょうり)は、高知県の豊かな食文化を象徴する豪華で多彩な伝統料理です。大皿に盛られた料理は、新鮮な海の幸や山の幸をふんだんに使い、美しく華やかに仕上げられます。刺身や寿司、天ぷら、煮物、酢の物など多彩な料理が一皿に並ぶのが特徴で、祝宴や特別な席には欠かせません。特に、カツオのたたきやウツボ料理といった高知ならではの味覚も味わえます。

皿鉢料理は、料理を囲んで大勢で楽しむ「おきゃく(宴会)」文化と深く結びついており、土佐の辛口の地酒とも相性抜群です。その賑やかで豪快な盛り付けは、もてなしの心を表し、人々の交流を深める役割も果たしています。現在では、伝統を守りながらも、現代の嗜好に合わせた新しい皿鉢料理も登場し、観光客にも人気を博しています。高知の風土が生み出したこの料理は、食卓を彩るだけでなく、地域の食文化の魅力を存分に伝える存在です。

NO.732

令和7年4月10日発行(毎月1回10日発行) 昭和44年4月26日第三種郵便物認可 発行人 / 瀬田章弘 編集人 / 高橋秀明 発行所 / 全日本印刷工業組合連合会 〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 TEL.03-3552-4571(代) FAX.03-3552-7727
https://www.aj-pia.or.jp

本誌では、本文に(株)モリサワのユニバーサルデザインフォントを使用しています。

印刷ビジネスの 新エコシステム

ITと結び、 今までにない価値をつくる

Interview
この人に
聞きたい

株式会社グーフ CEO 岡本幸憲 氏

聞き手：経営革新マーケティング委員会委員長 木村崇義(株式会社ソウブン・ドットコム 代表取締役社長)

株式会社グーフは、印刷発注者と印刷製造者の間に立ってデジタル技術を活用しながら両者を結び、最適化された印刷サプライチェーンの環境を提供している。ベースとなるのがデータドリブン（データに基づいて判断やアクションを行う手法）。これをもとにデジタルと紙媒体を結び付けて新しい価値を生み出し続ける。アメリカに移住して21歳で最初の起業をし、シリコンバレーでもスタートアップに参画した経験のある同社 CEO の岡本幸憲氏は1996年に帰国後、家業の複写・情報処理会社で、オンデマンド印刷と IT を結び付けたサービスの提供を開始。経営統合した会社でもさらにスケールアップした事業を立ち上げ続け、2012年に「誰もが自由に印刷サービスを受けられる」という理想追求のためにグーフを設立した。岡本氏の優先順位はクライアントやパートナー企業のインセンティブである。「デジタルでは利己的なサービスは選ばれない」と断言するその姿勢は、優秀な人材やパートナーを惹きつけてきた。合理的な IT 事業家である一方、情熱家でもあり、しかも情にもろい側面を持つ岡本氏に、今年 2 月に横浜市に新たに開発した生産・研究拠点『goof.CAMPUS(グーフキャンパス)』で話を伺った。

ハードのデジタル化とサービスのデジタル化

木村 本日は、ITと印刷で色々な価値、サービスを生み出している株式会社グーフの岡本CEOにお話を伺います。まず、岡本さんはどのようにITと印刷を結び付けた事業を立ち上げて来られたのですか。

岡本 17歳の頃から約15年、アメリカで過ごし、シリコンバレーでeラーニング関連のビジネスを経験する機会を得ました。初めて起業したのは21歳の時です。それから日本に帰ってきて、父が営む複写・情報処理の会社に入社して、日々変わる航空会社の飛行オペレーション用マニュアルなどをオンデマンドで印刷し、1日2回から3回に分けて納めていました。海外から送られる情報をもとに、機材ごとに違う情報を整理、印刷、オペレーションセンターにある数百の棚へオンリー・ワンの印刷物を、お客様のスケジュールに合わせて提供するサービスです。

そうしたパーソナライゼーションやお客様ビジネスの時間軸に合わせたサービスは、アナログ形態ながら昔か

らあって、だいたい複写業が請け負っていました。サービスなので年間契約が当たり前で、見積りなんてありません。上流でデータを扱うので、複写業のビジネスモデルに合っていたのでしょう。今までのやり方をデジタルライゼーションするだけでDXができたわけです。

ITと印刷を結び付けてサービス化できたのは、お客様のビジネスの最上流で、どのドキュメントがなぜ、どの状態で、いつ、何処で必要かという印刷の目的と、果たす役割が把握できていたからです。いずれにしても発注者視点でビジネスをデザインすることが重要です。5W2Hを明確にして、なぜその印刷物がどういうプロセスで必要なのかの根拠を前提に、お客様と話をすれば、先方のビジネスのリズムが分かってきます。

木村 一方で、印刷業のデジタルライゼーションは、カタログのデザインなどを作る方向に進みました。

岡本 印刷産業のデジタル化が始まって30年ぐらいが経ちますが、同じところで止まってしまうのは、ハードウェアのデジタルライゼーションという畠にはまってしまっている

からだと理解しています。ハードウェアを動かすためのソフトウェアと、事業を育むためのソフトウェアの違いを認識しないまま、デジタル化を進めてきたのだといえます。

社会がこれまでの仕組みが限界だからデジタル技術で未来を豊かにするために変わらねえと言っているのに、昔の仕組みをそのままデジタル化しようとしているわけです。バリアブル印刷ができたからDXが実現できるわけではありません。ワン・トゥ・ワンマーケティングの裏側には、クライアントの顧客情報のデータベースに基づいて、CRM(顧客関係管理)システムやSFA(営業支援システム)、マーケティングオートメーションが連動して動いており、常にデータが循環して消費者との新しいリードを探っています。そうしたクライアントのデータ資産に絡んでいかなければ、バリアブル印刷ができて下請け、孫請けになって付加価値が生まれ出せないことになります。

30年前はそれでも豊かになりました。昔のやり方をデジタル化することで、成功と失敗の経験ができ、未来への確立を高める手段にできたからです。しかしながら30年が経過して、未来が見えるようにチャレンジしながらも、見えていないという矛盾の理由はあるはずです。KGI(重要目標達成指標)に向かってKPI(重要業績評価指標)を重ねていけば、10年も経てば必ず変わってきますよ。当社だけでなく、愚直にそれを実践してきた企業は、10年前と比べて確実に変化しています。

夢を見て、妄想し、考えるよりも動き、体験、知識を積んで、本当に仲良くすべき仲間とともに未来をイメージしていくことが大事です。定性的な話になりますが、それがデジタル時代の中で成長し、オンリーワンに続く道です。デジタルで勝っている会社のリーダーの多くが、そこに価値を置いています。お客様がそう言ったからとか、お金が見えそうだから投資しようとかではないということです。

CAMPUS で生まれる生態系 設備も所有から利用へ

木村 株式会社グーフの創業は2012年ですが、岡本さんは一貫して29年もITと印刷を追求してきました。

岡本 僕らが生き延びている理由の一つが、ユニークな人格の集まりだったのと、たまたまクライアントが「やってみなきゃ分からないよね」と予算とプロジェクトを出してくれたからだと思います。小さいグループだけれども、普通のIT業者に比べて俊敏で、泥臭く続けて、気づいたら豊富な“答え”を持つようになっていました。

現在は生活者個人がデジタルという手段を手にして、

消費の主導権を握っています。その結果、より良いマーケティング施策の答えが誰にも分からなくなりました。多分そうであろうという予測を前提にまず“アジャイル”で動き、60点、70点を取れるようにして、それをベースに消費者の嗜好や行動をさらに予測して確率を上げていく考え方に基づいた当社の発明が、デジタルマーケティングの世界にうまくフィットしたのだと思います。

木村 岡本さんは良く“エコシステム”という言葉を使っています。どういう意味ですか。

岡本 経済的な視点の生態系です。私たちのモデルでいうと、当社が企画・営業・戦略デザイン・ITを担い、パートナーが印刷製造・出荷を担う共存と互惠の関係です。

当社のビジネスの多くが、印刷1枚当たりの費用を請求するのではなく、印刷を絡めたサービス全体を提供するものです。したがって、サービス品質レベルが一定でなければ、クライアントとの約束が果たせないことになります。

そのSLA(サービス品質保証)を担保するためには、望まれた印刷枚数を、安定した品質で提供する生産環境が必須です。サービスに関わる全ての要素が連携して、グーフが始めにクライアントのシステムなど上流工程から受け取ったデータを、製造工程に受け渡せるよう標準化して、印刷枚数、配送場所などから最適な全国各地のパートナー企業にジョブを振り分けます。そのプラットフォームが『GEMiNX(ジェミナス)』です。要は印刷発注者と印刷工場の間に入って、分散最適化生産の橋渡しをするものです。

3年前、GEMiNXでの独自サービスを立ち上げ時にゼロだった1ヵ月の出荷件数は現在、約4万件を超えています。ネットから単純に受発注する物販型ECではないので、同じ



goof.CAMPUS 外観

インターネットを活用したサービスといえども、きちっとした生産体制とSLAを担保し、クライアントのビジネスを正しく、かつ持続的成長を前提に支えるインフラサービスなので、エコシステムに参加するパートナーとの互恵関係は非常に重要です。

木村 分散最適化生産で環境負荷が下がりますよね。



岡本 サステナビリティが追い風になっています。クライアントが印刷物運用を考えた時に、輸送を含めたサプライの環境負荷が8割を占めます。工場内の印刷機が動いて発生させるCO₂排出量は印刷発注者のGHG(温室効果ガス)にとっては非常に小さなことです。グローバルで展開するブランドオーナーがブランドを維持するために一拠点で量産し、海外に輸送することがもってのほかな時代に変化しました。したがって彼らは印刷物が使われる近い場所での適地生産を求めています。

また、デジタル技術はマーケットが変化するスピードを上げ、かつ多様化させているので、春に売れていたものが、その年の秋まで売れ続けるとは限らなくなっています。だからビジネスの中で“在庫”という考え方が変わってきています。可能な限り、適時・適地・適量を生産する合理的なインフラが必要とされているのです。

木村 そのエコシステムを発展させる CAMPUS の立ち上げの動機はどういったものだったのですか？

岡本 グープが培ってきた経験をベースに「多分こうなるから一緒にやりましょうよ、大丈夫ですよ」と言っても多くの印刷会社さんは共感してくれませんでした。印刷産業の立場としては理解できる判断だと受け入れましたが、30年もかけてここまでたどり着いて、クライアントの空気感が変わっているのにもったいないなと。だから僕自身が印刷枚数と事業を成長させる事例をお見せするしかないと考えたのが、CAMPUS 開設の一つの理由です。

CAMPUS には運営パートナーである印刷会社、ハードメーカー、ソフトメーカーはもとより、用紙などのサプライヤー、金融関連など様々なパートナーが関わり、新しいエコシステムを形成します。ここにはキヤノンの高速枚葉インクジェット印刷機を設置していますが、当社の固定資産では

なく、ヤレ紙を含めて利用した分だけをお支払いするシェアリング形態の実証実験サイトにもなっています。

事業デザインがいくら前向きで、印刷環境が整備されても、そのモデルでビジネスが成り立つのは最初だけで、クライアントのビジネスが変化すれば、すぐに満足いただける対応ができない側のモノづくり工場に落ち込みます。それは非合理的だから設備は“所有”から“利用”にして短期決戦に持ち込み、クライアントのビジネスがさらにスケールアップしたら、さらに上位の機種や手段に切り替えていくことになります。しかも、グープはオペレーターを雇いません。パートナー企業の印刷会社からオペレーターが派遣され、同じ価値観で持続的成長をしてきます。

木村 生産のほかに、具体的にどういうことに取り組むのですか？

岡本 様々なデータを収集・集積し、将来に活かします。それはデバイス運用だけでなく、ビジネスの創造と必要な人材育成にも関わります。

まず、可能な限りのオートメーションで稼働情報を記録し、定量化します。どのぐらいの枚数をどのように印刷したかが一目瞭然なので、ごまかしが効きません。オペレーションにしても、誰がどういう操作をして、どういう品質レベルで、どのぐらいの速度で機械を動かしたかまでデータ化し、ROIを計測します。そうしたデータを前提に、より使い易いインターフェイスの開発からプロセスで使われる用語の定義までも検証改善していきます。すでに CAMPUS に共感しているメーカーのエンジニアと一緒に現場に入り、現場の操作性と利益の関係性を定量化する動きを始めています。

様々なデータを基盤にしたエコシステムが CAMPUS です。ステークホルダーが、皆でビジネスを実践して蓄積されたデータ資産を、実証や商品開発、改善に活かします。標準化はSLAの向上に貢献しビジネスの拡大に繋がります。ビジネスが拡大すれば適地生産パートナーが必要になりますが、その際に必要な価値観は CAMPUS ですでに体験済みということです。結果的に次世代の若い人たちが、これからの印刷ビジネスを担えるようになってもらえたらと考えています。もう一つの大きな目的が、次世代の学びの場だから“キャンパス”なのです。

データドリブンで広がる印刷市場

木村 ITを絡めると、印刷のお客様への提供価値がものすごく変わってきますね。

岡本 ITの世界ではレイヤーや役割があって、例えばOS



とその上で動くアプリ。OSの上でアイデアのある企業が自由にサービスを展開し、利用者がアプリを使うことによってデータが生まれます。全くビジネスモデルの違うビジネスがエコシステムを持つから、市場が創造されます。印刷に当てはめてみると、“OS”は大きな印刷のサプライチェーンです。その中で“アプリ”というべきサービスがあって、発注者のITとコネクしたシステムから工場、機械、輸送が連携し、先には顧客動線がデータ化され、ブランドのCRMに貢献できる様々なデータが蓄積されます。そのデータを活用して新たな収益源を生み出すことができれば、印刷1枚いくらかという話ではなくなります。

これがデジタル型経済です。デジタルのなかった時代の経済と異なり、今では NFT のような概念まで繋がりが、そもそもの巨大市場が継続的に経済の分母を増やしています。印刷市場が縮小していると言われますが、それは昔ながらのモノづくりの市場であって、今は印刷の価値によりビジネスを成長する市場が以前の何倍も広がっています。デフレと見られている印刷産業にあっても、ずっと伸び続けている会社は、そうした市場の変化が見えていますし、印刷物だけで儲けていません。

ただし、そうしたサービスは印刷のプロだからこそ編み出すことができます。単に労働コストを減らすスキルレスで、誰でも印刷できますと普通にいう人たちにはできないでしょう。それでは自分たちの価値を下げるだけです。

木村 スキルレスではできないということですが、無人化やスキルレスの生産でもいいよという立場なのに意外でした。

岡本 当社のGEMiNXにはこうした事例があります。店舗で店員さんが接客している間に、レーザープリンターから

パーソナライゼーション化された販促物が出て、お客さんが帰るまでに手渡すというものです。DMを送るための郵送料が要りませんし、デジタルと同じスピード感で販促物を渡せます。お客さんが印刷されたQRコードを読み取り、Webページにアクセスすればさらに行動データが取れます。こうした印刷はスキルレスでも構いません。

ただ、お客様が求める品質や価値を理解せずに、「プリンターで誰でもできますから」とモノづくりを提案するような営業はプロフェッショナルといえないのではないかということです。オフセット印刷も、デジタル印刷も正しく理解し、分け隔てなく最適な手法を見出すのがプロといえますし、そもそもお客様は自社のビジネスに貢献する、わかりやすく使いやすいサービスを、企画、デザイン、テクノロジー、品質標準、機材選定、サプライ管理など、プリントに関わる全ての含めたインフラで求められているので、スキルレスを求めて原価を下げるというような話は求めていないはずです。

プラットフォームビジネスに向けて

岡本 木村さんの会社はどういうお客様を対象にしているのですか？

木村 当社は創業80年で、学会の論文の印刷からスタートしました。当時の情報技術の最先端だった“印刷”でお客様を支援してきたという原点に立ち返り、今の時代に合わせてITで支援する会社になろうと舵を切っています。印刷はもちろんなのですが、様々なシステムを提供しながら、お客様である学会のイベント運営や事務局業務の効率化をお手伝いしています。だいたい1,600から1,700の全国の中小の学会と何らかの取引があって、そのデータベースを持っています。

岡本 1,600 から 1,700 とはすごいですね。

木村 当社では会員数1,500人以下が中小の学会と定義しています。中小の学会は予算も人員も厳しいので、システムによる人手不足などの課題解決を提案しています。しかしながら、学会によって使いたいシステムが異なるので、その都度、複数のパートナーのシステム会社に依頼しています。本当はプラットフォーム的な動きをしたいのですが、代理店のような状況というのが課題です。

岡本 今後、学会を運営する側も若返っていくでしょうから、アンテナを立てておけばどこかのタイミングで機会があると思いますよ。システムやソフトウェアは“作ってもらう”のではなく、“使うもの”、という概念を受け入れやすい世代が出てくれば、それが変化のタイミングになってきます。

グーフの場合、新しいお客様を獲得するのに、熱量を上げてプレゼンして「使って下さい!」という日々を続けてきましたが、それだけの既存のお客様がすでにあるのだったら焦らなくてもいいと思います。ただし、その時のために、“所有”から“利用”に変えた時のお客様のサービスメリットはイメージしていた方がいいですね。

木村 グーフさんはとんでもないプラットフォームの仕組みを作って、その中で絶妙なポジショニングを取っています。どうそのポジションを築いていけましたか。



岡本 ここまでくるのに30年ですよ! (笑)。始めたころはまだITの黎明期だったとか、市場がまだ小さかったとか、色々な要素とラッキーが重なったのがオンリーワンで生き延びられた要因だと思います。加えて自分でできないことを一緒にやりませんかと言い続けて、そうなっただけです。その中で、相手の立場で「彼らに差し上げられることは何だろう」という発想はいつも持ち続けていました。デジタルの世界で利己的なサービスは生き延びられません。利己的では利用してくれないからです。

サービスを考える時には全体像を明快にした上で自分がやること、仲間がやることを考える。そして仲間の誰がそのインセンティブを受けるのかを把握しておくことが重要です。そうしたことを実践していたら、自然とこのポジションに収まっていた。

木村 なるほど、参考になります。絶妙なポジションの上で、優秀な人たちがいるのだらうなと想像してしまいます。人材の育成はどうされているのでしょうか。

岡本 うちがトップ営業ですが、私がしていること全てを背中で見せます。次に概念を植え付けて、ある程度お膳立てしながらクロージングした後のマネジメントをさせます。

それで2、3年経つとほとんどのスタッフが「岡本さん、自分の2年後のキャリアが見えない」と言い出します。そこで新しい次の機会を分け与える。こうして20年間、ひとを育成してきました。

実は今年の初めに事業継承を始めると宣言したのです。そのプロセスとして、一人が岡本をテイクオーバーしていくのではなく、チームで乗り越えていく絵を描いています。その中から代表になるのは、最初に全くのゼロから新規で3億円の事業を立ち上げた人になると思います。管理が強いだけの一人ぼっちの2代目はいりません。当社が提供するのデジタルのサービスです。今年のビジネスが来年通用しなくなる可能性が大いにあり、管理というよりも事業を創造し続けられるかどうか、当社のサステナビリティに関わります。

当社には専門的な知見から助言するアドバイザリーがいます。キャラクターグッズ大手企業のマーケティング担当をはじめ、愛知万博でITを設計したり、自衛隊にインターネットを導入したりした変態たちが集まり、妄想、構想、実践を繰り返しています。こうした環境で育ってくれる次世代は、今以上に変わり者になるはずです。

木村 そうした方々はどう集めてくるのですか。

岡本 「俺はこうするんだ!」って同じことを言い続けていたら、「面白いね」って賛同する人が集まってきました。お客様からも、10年後に「岡本さんのあの話、気になっててさあ」と声がかかることもあります。“やりたいこと”にぶれない。するとコミュニティができてくる。

80年の歴史がある木村さんの会社が印刷会社の立場ではなく、豊かさという視点でDX的な発想を持てればすごいことができますよ。目的を変えずに、手段だけを柔軟に変えて行けばいいと思います。

木村 何もかも、私次第です (笑)。

岡本 楽しめばいいじゃん。だって世襲なんだから逃げられないんでしょう (笑)。だったらやった方がいいでしょうって、若い経営者の人たちに良く言うんだけど。好きな人と一緒にやっていると、辛いことも当然たくさんあるけれど、嫌にはならないから。

木村 目から鱗のお話を伺うことができ、Xiの取材なのに個人的にすごく参考になりました。仕組みとか、システムとか、きれいなところに目が向きがちですけど、リーダーの情熱や信念のもとに築かれてきたことがとても理解できました。ITを取り入れると印刷の価値にレバレッジが効いてくる。当社でも実践したいと感じました。本日はありがとうございました。



Morisawa Fonts

文字とつながる。世界がひろがる。



フォントのサブスクリプションサービス

豊富な書体ライブラリー / 複数デバイスでの利用 / 簡単なフォントインストール

morisawafonts.com



モリサワ

事業報告

補助金活用と 業態変革セミナー

[東京都・(株)モトヤ]

2月3日(月) 16:30～18:00

組織活性化委員会 事前報告会

[オンライン]

2月4日(火) 13:00～

第11回 三役会

[東京都]

2月5日(水) 10:00～

創立70周年記念行事 準備委員会

[オンライン]

2月5日(水) 10:00～

全青協 正副議長会

[大阪府]

2月7日(水) 10:00～

全青協 第38回全国協議会

[大阪府・グランキューブ大阪]

2月8日(土) 16:30～18:00



東北地区印刷協議会

[宮城県]

2月12日(水)

東京地区印刷協議会

[東京都]

2月18日(火)

中部地区印刷協議会

[愛知県]

2月21日(金)

近畿地区印刷協議会

[奈良県]

2月21日(金)

中国地区印刷協議会

[岡山県]

2月21日(金)

第18回 MUD コンペティション 表彰式

[東京都・池袋サンシャインシティ]

2月19日(水) 10:00～



AICA セミナー

[オンライン]

2月25日(火)

新・勝ち残り合宿ゼミ

[京都府・緑風荘]

2月28日(金)～3月1日(土)



北海道地区印刷協議会

[北海道]

2月28日(金)

四国地区印刷協議会

[高知県]

2月28日(金)

第12回 三役会

[オンライン]

3月3日(月)

創立70周年記念行事 準備委員会

[東京都]

3月3日(月)

印刷産業連携推進室

[東京都]

3月3日(月)

組織活性化委員会

[オンライン]

3月12日(水) 15:00～

サステナビリティ・ CSR 委員会事後報告会

[オンライン]

3月18日(火) 11:00～

経営革新マーケティング 委員会

[オンライン]

3月18日(火) 15:00～

アドビテクニカルセミナー 冬の陣[オンライン]

3月19日(水) 14:00～

印刷技能人材機構設立総会 [東京都] 3月19日(水) 16:00～
全印工連 CSR 認定委員会 [東京都] 3月24日(月) 15:30～
創立70周年記念行事 実行委員会 [東京都] 3月25日(火) 16:00～
教育研修委員会事後報告会 [オンライン] 3月26日(水) 10:00～

官公需対策委員会 事後報告会 [オンライン] 3月26日(水) 14:00～
第13回 三役会 [東京都] 3月27日(木) 11:00～
三役・全青協定例連絡会 [東京都] 3月27日(木) 12:00～
第6回 常任役員会 [東京都] 3月27日(木) 14:00～

日紙商との懇親会 [東京都] 3月27日(木) 17:30～
印刷 DX 推進協議会 [東京都] 4月8日(火) 10:00～
産業戦略デザイン室 [オンライン] 4月9日(水) 14:00～

事業予定

監事会 [東京都] 4月16日(水) 13:00～
第1回 三役会 [東京都] 4月24日(水) 11:00～
第1回 常任役員会 [東京都] 4月24日(木) 12:00～
第1回 理事会 [東京都] 4月24日(木) 14:00～
全印政連通常総会 [東京都] 4月24日(木) 16:30～
第1回 サステナビリティ ・CSR事前報告会 5月9日(金) 11:00～

第1回 サステナビリティ ・CSR委員会 5月12日(月) 15:00～
第2回 三役会 [東京會館] 5月26日(月) 11:00～
第2回 常任役員会 [東京會館] 5月26日(月) 12:00～
通常総会 [東京會館] 5月26日(月) 14:00～
九州地区印刷協議会 5月30日(金)
第3回 三役会 6月4日(水) 10:00～

東北地区印刷協議会(～20日) 6月19日(木)
中部地区印刷協議会 6月20日(金)
中国地区印刷協議会 6月20日(金)
東京地区印刷協議会 6月24日(金)
北海道地区印刷協議会 6月27日(金)
近畿地区印刷協議会 6月27日(金)
四国地区印刷協議会 6月27日(金)

全印工連 創立70年の歩み

企画主旨

全日本印刷工業組合連合会は1955年(昭和30年)、「日本印刷工業調整組合連合会」として発足し、今年で創立70周年を迎えました。機関誌「Xi」では本号から9月号まで中小印刷業の経営基盤の整備と確立を目指してきた全印工連の歩みをダイジェストで振り返ります。私たちの業界がどのように生まれ、継続してきたのか、また先人たちがどう奮闘して産業を守り、発展させようとしてきたのか、時代とともに役割を変えてきた全印工連の姿を見つめて、組合の皆様と共に次代の印刷産業を展望したいと思います。

vol.
1

1945年～1957年(昭和20年～32年)

会長：中田 秀夫／1955年(昭和30年)、向 喜久雄／1955年～1962年(昭和30年～37年)

焦土と化した日本 戦後復興・混乱から印刷業の再生へ!

我が国は1930年代から40年代初頭まで、「大日本帝国」が政治及び経済、社会全てを軍事国家体制の枠組みに置いた。満州事変に始まり、戦線が拡大するにつれ「臨時資金調整法」や「軍需工業動員法」、「工場事業場管理法」が公布され、1938年(昭和13年)の「国家総動員法」等によって、本格的な戦争経済体制へと突入した。

戦争経済体制への突入に伴い、「新聞及び雑誌用紙制限令」、「国民徴用令」、「賃金統制令」などが相次いで施行され、企業活動は著しく規制された。印刷インキは、戦時規格として約20種に制限され高級品の製造は禁止、電力供給カット、印刷外交員の男子就業禁止、企業整備令によって一定の生産能力以下の工場を廃止させるという苛酷な手段が強行され、転廃業者の機械と活字は買い上げられ、スクラップされ、軍需品の原料とされた。こうした強権発動にもかかわらず、やがて日本の主要都市は空襲によって次々と焼失、破壊され、終戦直前の昭和20年6月に「出版非常措置要綱」によって軍需、食糧増産、戦時生活に必要な出版物のみに用紙割当を行うこととされ、民需産業としての印刷業の役割と機能は完全に終焉する。

昭和20年8月15日、戦争は終結したものの、食料をはじめとする物資の欠乏と超インフレの中で、印刷産業は復興に進むことになる。その道のりは平たんなものではなく、禁制品の印刷製本機械の製造が再開されたものの、資材、労力、電力不足により復旧は容易ではなかった。資材も用紙から地金、インキ、製版材料に至るまで高騰を続けた。昭和28年、

物価高騰の下で朝鮮戦争が休戦すると景気が一気に冷え込み、産業界は生産過剰と価格暴落に見舞われた。

国はカルテルによる救済措置として「特定中小企業の安定に関する臨時措置法」(中小企業安定法)を制定。中小企業の比率が高く、需給バランスを欠いて事業継続に大きな影響のある業種について「調整組合」の設立を認めた。「中小企業安定法」とは生産制限に基づき、価格の安定と企業経営の安定を図る法律である。印刷業も指定業種となり、全国に調整組合が設立されていた。

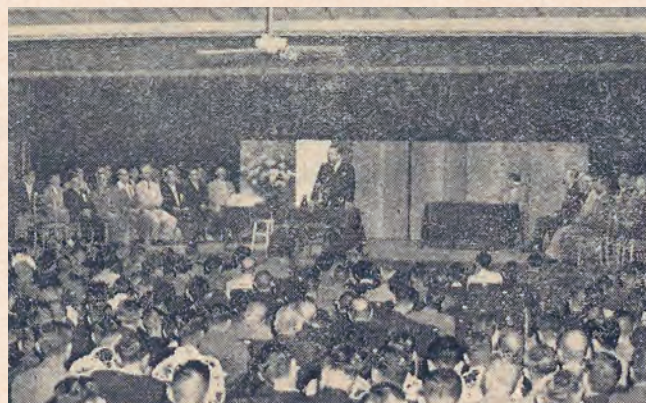


東京印刷時報 工場巡回技術指導を報じる記事より(昭和27年9月1日)

昭和 30 年、各地の 19 調整組合の申し合わせ組織として「日本印刷工業調整組合連合会」（日印調連）が設立され、昭和 33 年に価格と設備を調整する調整計画が認可された。昭和 33 年に「中小企業団体の組織に関する法律」の制定により、全国の調整組合は工業組合へと移行。日印調連は「日本印刷工業組合連合会」（日印工連）と改称し、調整事業を引き継いだ。しかしながら昭和 34 年から景気回復が本格化。印刷需要の増加とともに設備規制が緩和され、価格調整についてもアウトサイダーへの規制に効果がないことから調整事業は昭和 35 年度で終了に至った。

昭和 38 年には、“ポスト調整事業”が不透明な中、「中小企業近代化促進法」（近促法）が制定され、国の中小企業政策が、保護から構造改善へと転換。中小企業の生産性向上による国の競争力強化が見込まれる業種団体を指定し、金融、税制などの優遇措置が講じられた。

日印工連は昭和 41 年、「全日本印刷工業組合連合会」（全印工連）と改称。沖縄を除く 46 工組（沖縄工組は昭和 47 年に沖縄県が日本復帰を果たすとともに全印工連に加盟）による全国組織として近促法に基づく「構造改善事業」の準備を進めていくことになる。



東京印刷時報 印刷文化典を報じる記事より（昭和27年 10月1日）

【印刷組合・情報産業の歩み】



1949 年(昭和 24 年)

- ・東京印刷協同組合設立
- ・日本印刷工業会設立

1950 年(昭和 25 年)

- ・製紙博物館(現紙の博物館)オープン
- ・日本印刷工業会が、印刷業法制定運動を決定

1952 年(昭和 27 年)

- ・東京印刷工業会設立
- ・印刷インキ工業連合会設立
- ・第 1 回印刷文化典開催(東京)

1953 年(昭和 28 年)

- ・東京都印刷工業健康保険組合設立
- ・印刷業が、中小企業安定法の指定業種となる

1953 年(昭和 28 年)

- ・東京都印刷工業健康保険組合設立
- ・印刷業が、中小企業安定法の指定業種となる

1954 年(昭和 29 年)

- ・調整組合問題について、東京印刷工業会が統一見解を表明
- ・新潟県印刷工業組合設立
- ・日本印刷工業調整組合連合会設立

1955 年(昭和 30 年)

- ・「日本印刷工業調整組合連合会」設立認可

1957 年(昭和 32 年)

- ・株式会社日本印刷会館創立
- ・全日本ビニール加工紙協同組合連合会設立

【社会の出来事】

1945 年(昭和 20 年)

- ・東京大空襲 死者約 12 万人
- ・広島・長崎に原爆投下
- ・天皇、終戦の詔書放送
- ・日本印刷産業統制組合が、「戦後に於ける印刷産業の在り方」を発表
- ・GHQ が日本政府に対し、「新聞・言論制限法令」の全廃を指示

1946 年(昭和 21 年)

- ・日本国憲法公布
- ・日本商工会議所設立
- ・当用漢字、現代かなづかい制定

1947 年(昭和 22 年)

- ・教育基本法及び学校教育法、労働基準法、独占禁止法公布
- ・日本国憲法施行

1948 年(昭和 23 年)

- ・福井大地震発生
- ・「美しい暮らしの手帖」創刊

1949 年(昭和 24 年)

- ・国定教科廃止、検定制となる
- ・中小企業等協同組合法公布
- ・お年玉付年賀はがき発売

1950 年(昭和 25 年)

- ・国税調査、総人口 8,319 万 9,637 人

1951 年(昭和 26 年)

- ・NHK がテレビ実験放送を始める
- ・戦後初の国内民間航空会社、日本航空が設立
- ・民法ラジオ開始

1953 年(昭和 28 年)

- ・中小企業信用保証協会法公布、施行

1954 年(昭和 29 年)

- ・厚生年金保険法公布

1956 年(昭和 31 年)

- ・日本中小企業政治連盟発足

1957 年(昭和 32 年)

- ・中小企業団体の組織に関する法律(団体法)が公布

経済産業大臣賞(一般の部)

佐川印刷株式会社 佐川 正純(愛媛県)

「“鑑賞”から“体験”へ、進化する視覚障がい者向け
『手で見える絵画(2.5Dリアルプリンティング)』三部作」



●講評

従来の視覚による鑑賞に触覚を加えることで、新しい視点を提供する革新的な取り組みです。この体験は、視覚障害を持つ方や色弱の方々を含め、すべての人がアートにアクセスできることを目的としており、メディア・ユニバーサルデザインの理念を体現する素晴らしい事例です。

触覚による新しい鑑賞の可能性として、通常触れることが許されない絵画を「さわって理解する」仕組みが提供されており、視覚情報に依存しない新しい絵画鑑賞の形が提示され、レイヤー構造によって絵画の構成要素が分解され、触覚を通じて視覚的な作品の本質や意図を深く理解できるよう工夫されています。

ミュージアムショップのみならず、教育機関や地域イベントでの販売を通じて、多くの人に手が届く仕組み作りを印刷業界含め取り組んでもらえることを期待します。

今号では、2024年12月16日(月)に実施された「第18回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」において、経済産業大臣賞を受賞した2作品と、優秀賞を受賞した4作品をご紹介します。



作品の詳細や
誌面に載っていない
佳作7作品の情報も
ご覧ください！

経済産業大臣賞(学生の部)

静岡文化芸術大学 飯塚ゆりの(静岡県)

「おいしいレストラン」



●講評

アレルギーというデリケートなテーマを色弱者や年齢を問わず分かりやすく楽しく伝える、インクルーシブな絵本となっています。キャラクターの名前がアレルゲン由来であることにより、子どもが具体的にアレルギーについて親しみやすく学べる仕組みが構築されています。子どもたちにとって親しみやすい絵本という形式を採用することでアレルギーという難しいテーマがわかりやすく伝えられています。

キャラクターやデザインの工夫によって、すべての人が美味しく楽しい食事の喜びを共有できる社会を目指すこの作品は、メディア・ユニバーサルデザインの理念に非常に適合しており、教育的・社会的意義が高いと言えます。広い普及と活用を通じて、さらに多くの人々に希望と理解を届けることを期待します。

優秀賞(一般の部)

橋本印刷株式会社 村上 一(東京都)

「これな～んだ 色覚障がい者が見ている世界」



●講評

視覚障がい者が見ている世界を子どもたちが直感的に理解できるようデザインされた素晴らしい作品です。複雑な描写を避け、必要最小限の情報に焦点を当てる「引き算の表現」によったシンプルで親しみやすい構成は、色弱者に関わらず多様な読者に寄り添ってまとめられています。絵本という形式を用いることで、小さな子どもでも楽しく読み進めることができ、視覚障がいというテーマを身近に感じられるようになっていきます。

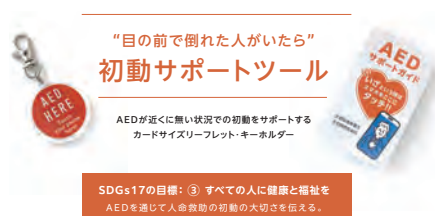
視覚障がいへの理解を深める教育的ツールとしての可能性が高く、今後の普及とさらなる改良が期待されます。

優秀賞(一般の部)

ダイオーミウラ株式会社

木下知由紀、加賀谷昌道、藤田弘志、
室木嘉秀、佐藤心一、坂上まい美(東京都)

「“目の前に倒れた人がいたら”初動サポートツール」



●講評

緊急時の初動対応を支援するためのシンプルで直感的なデザインと利便性を備えたツールです。特に、AEDの設置場所が分からない、または登録されていないケースが多い現状において、このツールは命を救う可能性を大きく

広げます。配色はシンプルで直感的に理解できるものとなっており、色覚に違いがある人でも安心して利用できるデザインになっており、緊急時には迅速な判断が必要となるため、複雑さを排除したデザインは、冷静さを保ちつつ適切に対応する助けになります。

さらに普及し、活用されることで、より多くの人々の命を救う可能性を広げるツールとして、社会的価値が非常に高い作品と言えます。

優秀賞(学生の部)

浜松未来総合専門学校 佐々木愛理(静岡県)

「部首タイプカード」



●講評

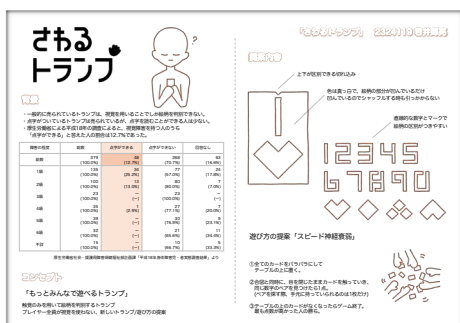
部首の名前や成り立ちを学びながら、漢字の持つ文化的・構造的な美しさを体感できる新しい教材です。特に、遊びながら学べる工夫と、手に取って使うことでタブレットやパソコンでは得られない体験を提供する点が魅力です。

一方で、メディア・ユニバーサルデザインの視点からは、色使いの改善や色以外の識別方法を加えることで、より多様な利用者に対応できる可能性が広がります。これらを反映した改良により、世代を越えて使われる普遍的な教材として進化することが期待できると思います。

優秀賞(学生の部)

静岡文化芸術大学 若井 輝亮(静岡県)

「さわるトランプ」



●講評

触覚のみを用いて絵柄を判別するという、ユニークなアプローチを取り入れ、視覚に頼らず楽しめるゲーム体験を提供しています。全てのプレイヤーが視覚情報を使わず同じ条件で参加できるという平等性を重視した設計は、インクルーシブデザインの好例であり、日常的に視覚に頼る生活を見直すきっかけとなる取り組みです。

裏面の仕上げや触覚情報の多様性など、さらなる改良が進めば、より幅広い層に受け入れられるツールとして進化する可能性があります。視覚以外の感覚に焦点を当てたこの取り組みは、日常生活に新たな気づきを与える価値ある作品です。

印刷と 共に、 28年。

PrintSapiensは導入シェア、JDF連携実績、
販売実績期間ともに国内1位の印刷業基幹業務システムです。

印刷業トータルワークフローシステム

PRINT SAPIENS

見積面付計算シミュレーションパッケージ

MIZMO SAPIENS

紙卸商向け基幹業務管理システム

KAMI SAPIENS

B2C B2B対応Web to Print 受注サイト構築アプリケーション

SAPIENS SHOP FRONT

印刷積算シミュレーションソフト

MITSUMOZUKUS

JDF対応MIS

検索

J Spirits 株式会社J SPIRITS TEL:03-6206-0681

東京都千代田区神田司町二丁目2番地7 パークサイド1ビル1F
HP▶<https://jspirits.co.jp> E-Mail▶info@jspirits.co.jp

タビメモリ®
御集印帳 3,600円(税別)
ロイヤルブルー
ブライトオレンジ
ファインゴールド

白いファイル
PF-II 3面のタイトル紙
A4タイプ(縦型) 差し替え自由

品番	PFII20	PFII30	PFII40	PFII50	PFII60	PFII80
標準価格	1,800円	1,810円	1,890円	1,950円	2,010円	2,140円

箔押名入れクリアホルダー
安と早い
17.8円
(5,000枚製作)
自社工場だから
高品質
短納期
最短3日間

数量	単価	価格	納期
500	36.8円	18,400円	3日
1,000	23.8円	23,800円	
3,000	19.8円	59,400円	
5,000	17.8円	89,000円	4日

※クリアーの価格です。色物は@5UP。箔押の版サイズは50cm以内となっております。デザインは完全アータ(イラストレータ8.0~CS6)にてご支給下さい。

株 株式会社 **プリントバック** TEL03-3821-2151
〒110-0008 東京都台東区池之端2-9-3 FAX03-5842-1405
E-mail infomail@printbag.co.jp URL <https://www.printbag.co.jp>

●ファイル・バインダー●証書入れ●メニュー●プラスチックカード●ホッパースタンプ(箔押)●クリアホルダー
●機関紙ファイル●社内報ファイル●手帳●表紙・製本(ペーパーリング・エコジョック®・ツインリング・セルリングス・バイラルリング)
●W箔押 《オリジナル品》ビットインフリーファイルIダブル・II、スーパークリスタルカレンダー、タビメモリ®

10部単位の販売となります。(税別)

導入社数 **1,500社** 突破！

働き方を変える。ビジネスを変える。

POWER EGG 3.0

POWER EGGは、汎用申請ワークフロー、Webデータベース、グループウェア、CRMの4つの機能を連携し、業務デジタル化を支援します。開発の知識がなくても、自社業務に合わせた申請フォームや業務アプリを簡単に作れるので、現場部門が主体となって業務のデジタル化を推進できます。また、運用中にアプリの複製・編集ができるので、トライ&エラーで業務改善に取り組むことが可能です。

貴社の基幹システムと組み合わせて、**製造業のDX**を推進しませんか？

既存の基幹システムで生産管理や販売管理、原価管理を行っていても、どうしてもシステム化が難しい領域が残っている…そんな課題はありませんか？
POWER EGGは、そのギャップを埋め、より広範囲のデジタル化を簡単に実現します。

Point
1**ノーコード**でかんたんフォーム・アプリ作成

業務に合わせた申請フォームやアプリを簡単・自由に作れるので、現場部門が主体となって業務のデジタル化を推進できます。また、運用中にアプリの複製・編集ができるので、トライ&エラーで業務改善に取り組むことが可能です。

Point
2**豊富な業種・業務テンプレート**

これまでの支援実績から、多種多様なテンプレートをご準備。すぐご活用いただけます。

品質管理DB

在庫管理DB

購入票

三谷産業株式会社 ICTソリューション事業部

**03-3514-6010**

〒101-8429 東京都千代田区神田神保町2-36-1
住友不動産千代田ファーストウイング

↓↓ ぜひこちらにアクセスください ↓↓

製品紹介サイトQR

無償デモサイトQR



高知県印刷工業組合は昭和30年に設立し、県内印刷業の経営基盤強化に向けて諸事業を展開してきました。現在は全印工連が掲げる“価格競争から価値協創へ”の方針のもと、「HAPPY INDUSTRY」をスローガンにして、印刷業の発展を通じて地域社会・経済の活性化を目指しています。

前年度は工業組合として『高知市まち歩きマップ』を発行し、観光振興を支援するとともに、『ものメッセ KOCHI2024』に出展することで、対外的に印刷産業をPRしました。また、組合員の経営支援としてセミナー・研修を実施するとともに、官公需における適正価格取引に向けた活動を行いました。

■ 高知市まち歩きマップを発行

『高知市まち歩きマップ』は、北の「高知駅」、西の「高知城」、東の「かるぽーと」の高知市中心街の“まち歩き”が楽しくなるマップです。グルメスポットや、文化施設、ホテル、コンビニ、公衆トイレ、路面電車の電停など、初めての人にもわかりやすい構成となっています。電子ブックでも配信しています。



印刷経営革新塾

■ セミナー・研修事業

前期は株式会社日研化学研究所 技術部係長 柴山行倫氏による『リスクアセスメントセミナー』、全印工連経営革新マーケティング委員会委員長 木村崇義氏による『全印工連組合支援セミナー 業態変革を学ぶ』、高知県観光政策課長 中村公祥氏による『高知県観光の現状と今後の施策』を実施し、経営から実務までの情報を提供しています。

■ ものメッセ KOCHI2024 に出展



2024年11月14日から16日まで、高知市の「高知ぢばさんセンター」で開催された『ものメッセ KOCHI2024』に青年会が出展しました。同メッセは高知県内でもものづくりに携わる事業者の優れた技術・製品の紹介や商談の場を提供するもので、会期中は26,800人が来場しました。青年会では印刷商材をはじめ、印刷業をPRしています。

■ 適正取引への運動

2024年12月19日に高知県に高知県入札予定価格改訂を要請しました。具体的には原材料費のさらなる高騰や労務費の上昇による製造コストについて適正な価格転嫁の実施の必要を訴えて、入札時の予定価格の見直し(積算を含む)や随意契約価格の見直し等の検討をお願いしています。また、2025年2月19日には高知市にも最低制限価格制度の導入と地元優先発注及び入札資格の厳格化を要請する『印刷発注に関するお願い』を提出しました。

高知県印刷工業組合 事務局

〒780-0863 高知県高知市与力町13-6
TEL 088-802-8680 / FAX 088-802-8681
URL <https://www.kochi-pia.or.jp/>



永らくお世話になりました

今期、全国青年印刷人協議会で直前議長を拝命していた岩村です。先日 2/8 (土) に大阪府立国際会議場 (グランキューブ大阪) で開催された全国協議会で 5 年間の活動に終止符を打ちました。全国の青年印刷人の皆様には組合の垣根を超えて大変お世話になりました。

直前議長となんとも偉そうな肩書きですが今期の西岡議長体制も優秀な人間が 9 ブロックから集まり、太刀持ち、露払いのような役目の指名副議長の二人も優秀なので僕の役目は暖かく活動を見守る好々爺のようでした。

前期は価値獲得をテーマとしました。今期はアツギベンチャーというまた難しいテーマを選びましたがそのテーマも難なくクリアして全国協議会を大成功に導きました。

僕からは難しいことは言えませんがただ一つだけ「まずは参加してみてください」です。食わず嫌にならないでまずは参加して体験、体感してほしいです。どこのコミュニティにも負けない熱があります。今まで斜に構えていた方が積極的に活動する姿を何人も目撃しています。忙しいのはわかります。会合ばっかり参加しているお父さんの尻



拭いを会社で一生懸命やっている青年印刷人をいっぱい知っています。「時間が無くて行けない」わかります。自分もそうでした。でも時間を作って参加してください。決して損はしない空間が存在します。この文章を読んで一念発起する方が一人でもいれば文章を書くのが大の苦手な小生も大変うれしく思う次第です。

最後にまだ全然よくわからないという全青協初心者の皆様にはぜひ全青協力ポッドキャストを聴いてみてください。

では、最後に全国の青年印刷人の皆様のご多幸とさらなる会社の発展を祈念して文章を締めたいと思います。

本当に今までありがとうございました。



全青協力ポッドキャスト



全国青年
印刷人協議会
ALL JAPAN YOUTH PRINTING ASSOCIATION

<https://blue-print.jp/>

急速に少子化が進み2030年代に入るまでの6～7年が、少子化傾向を反転できるかどうかのラストチャンスとされ、具体的な政策について「加速化プラン」として共働き・子育ての推進が進められています。

その対策の1つとして、出生後一定期間内に両親ともに育児休業を取得することを促進するため、育児休業に関わる給付金の給付率を現行の67%から80%へと引き上げることとし「出生後休業支援給付金」が創設されました。この制度は2025年4月1日からスタートします。

出生後休業支援給付金

施行期日：2025(令和7)年4月1日以降対象者より改正

子の出生直後の一定期間に両親ともに（配偶者が就労していない場合などは本人が）、14日以上育児休業を取得した場合に、申請に基づき出生時育児休業給付金又は育児休業給付金と併せ「出生後休業支援給付金」が最大28日間支給されます。

①支給要件：

次の a および b の要件を満たした場合に支給します

a：被保険者が、対象期間(※)に同一の子について、出生時育児休業給付金が支給される産後パパ育児休業又は育児休業給付金が支給される育児休業を通算して14日以上取得したこと

※対象期間

○被保険者が産後休業をしていない場合（被保険者が父親または子が養子の場合）

「子の出生日または出産予定日のうち早い日」から「子の出生日または出産予定日のうち遅い日から起算して8週間を経過する日の翌日」迄の期間

○被保険者が産後休業をした場合（被保険者が母親、かつ、子が養子でない場合）

「子の出生日または出産予定日のうち早い日」から「子の出生日または出産予定日のうち遅い日から起算して16週間を経過する日の翌日」迄の期間

b：被保険者の配偶者が「子の出生日または出産予定日のうち早い日」から「子の出生日または出産予定日のうち遅い日から起算して8週間を経過する日の翌日」迄の期間に、通算して14日以上育児休業を取得したこと、または、子の出生日の翌日において「配偶者の育児休業を要件としない場合」（次の③）に該当していること

②支給額：

休業開始時賃金日額 × 休業期間の日数(28日が上限) × 13%

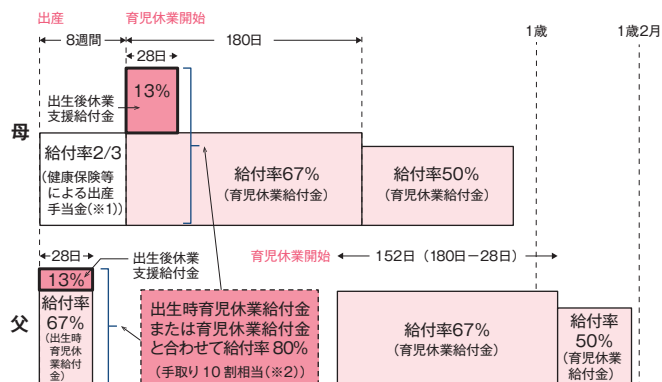
○休業開始時賃金日額：同一の子に係る最初の出生時育児休業又は育児休業の開始前直近6か月間に支払われた賃金の総額を180で除して得た額

業又は育児休業の開始前直近6か月間に支払われた賃金の総額を180で除して得た額

○支給日数は、対象期間における出生時育児休業給付金又は育児休業給付金が支給される休業の取得日数で28日が上限

支給額のイメージ

※/パパ・ママ育児休業プラス制度を活用した場合のイメージを記載しています。



※1 出産手当金:ご自身が加入している健康保険等の運営機関へお問い合わせください。

※2 育児休業中は申出により健康保険料・厚生年金保険料が免除され、勤務先から給与が支給されない場合は雇用保険料の負担はありません。育児休業等給付は非課税です。

※3 就労状況・賃金支払状況により出生時育児休業給付金または育児休業給付金が不支給となった場合は、出生後休業支援給付金の支給は行いません。

③配偶者の育児休業を要件としない場合

子の出生日の翌日において、次の1～7のいずれかに該当する場合、配偶者の育児休業を必要としません。被保険者が父親の場合は、子が養子でない限り、必ずいずれかの事由に該当することとなり、配偶者(母親)の育児休業取得の有無は要件になりません。

1. 配偶者がいない

配偶者が行方不明の場合も含まれます。ただし、配偶者が勤務先において3か月以上無断欠勤が続いている場合または災害により行方不明となっている場合に限りません。

2. 配偶者が被保険者の子と法律上の親子関係がない

3. 被保険者が配偶者から暴力を受け別居中

4. 配偶者が無業者

5. 配偶者が自営業者やフリーランスなど雇用される労働者でない

6. 配偶者が産後休業中

7. 1～6以外の理由で配偶者が育児休業をすることができない
配偶者が日々雇用される者など育児休業をすることができない場合や、育児休業をしても給付金が支給されない場合(育児休業給付の受給資格がない場合など)が該当します。なお、単に配偶者の業務の都合により育児休業を取得しない場合等は含みません。



令和6年度 下期地区印刷協議会開催結果

令和6年度の下期地区印刷協議会は、2月12日(水)の東北地区印刷協議会を皮切りに、下記日程にて全国9地区で開催された全体会議では、瀬田会長または各副会長からの挨拶、正副会長による「令和7年度全印工連事業構想」の説明、全印工連の事業概要説明が行われ、理事長会及び各分科会も併せて行われた。



●各地区の開催状況(開催順)は以下の通り。

地区	開催日	参加者(名)	全印工連からの出席者
東北	2月12日(水)	57	瀬田会長、福田副会長、田島常務理事、関野常務理事、高橋専務理事
東京	2月18日(火)	103	瀬田会長、橋本副会長、福田会長、高本副会長、富澤常務理事、小島常務理事、浜田常務理事、関野常務理事、木村常務理事、高橋専務理事
中部	2月21日(金)	49	瀬田会長、小島常務理事、抜井次長
近畿	2月21日(金)	62	橋本副会長、関野常務理事、木村常務理事、高橋専務理事
中国	2月21日(金)	37	福田副会長、浜田常務理事、長島局長
北海道	2月28日(金)	40	富澤常務理事、高橋専務理事
四国	2月28日(金)	38	瀬田会長、橋本副会長、江森常務理事、長島局長
九州	3月6日(木)	60	高本副会長、大風常務理事、長島局長
関東甲信越静	3月7日(金)	80	瀬田会長、小島常務理事、富澤常務理事、浜田常務理事、関野常務理事、木村常務理事、高橋専務理事

全国の印刷関連イベントのお知らせ

今後開催予定の全国の印刷関連イベントの開催日、イベント名、開催場所をお知らせいたします。
多くの組合員の皆様のご参加をお待ちしております。

開催日	イベント名	開催場所
5/30(金)・31(土)	2025 九州印刷情報産業展	福岡国際センター
7/2(水)～4(金)	第36回国際文具・紙製品展 ISOT	東京ビックサイト
7/17(木)・18(金)	SOPTEC とうほく 2025	仙台卸商センター産業見本市会館
9/3(水)・4(木)	HOPE2025	アクセスさっぽろ
9/11(木)	2025年9月印刷の月記念式典	ホテルニューオータニ
10/7(火)～10/10(金)	JAPAN PACK 2025	東京ビックサイト
10/10(金)	全印工連創立70周年記念行事	東京會館
10/24(金)・25(土)	2025 印刷産業夢メッセ	広島ガーデンホテル



**多様な視点で
印刷の未来をデザインする**
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

Giving Shape to Ideas

印刷ビジネスの課題を共に解決



受注拡大

デジタルを活用した受注体制の強化で
顧客拡大を支援

印刷物への多様な付加価値創造で
他社との差別化を支援



生産性向上

自動化やスキルレスでの作業性で
効率化&工数削減

生産プロセスのスリム化で
生産性&利益率向上



環境配慮

SDGsや環境課題解決への
取り組み支援

働き方改革など事業継続に必要な
社内環境構築支援

コニカミルタ ジャパン株式会社

つながるプリントラボ 検索

プロフェッショナルプリント事業部 〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 TEL. 03-6311-9061

印刷業の未来を 共に創る

簡単アクセス!!



インサツのこれからをかんがえる

Print Compass

Powered by RICOH

プリントコンパス 検索

リコージャパン株式会社 〒104-6033 中央区晴海1-8-10 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX33F

Horizon

Change the **focus**

使いやすく進化した無線綴じ製本機

無線綴じ機 iCE BINDER BQ-300

新世代15インチパネルHorizonXUI(ホリゾンクロスユーアイ) 初搭載。
製本のノウハウと自動化技術を融合し、オペレーターの経験や能力に頼ることなく簡単に製本作業を行うことができます。

ホリゾン・ジャパン株式会社

www.horizon.co.jp



iCE BINDER

SCREEN

印刷市場に革新をもたらす。

詳しくはこちら





フルカラーバリアブルプリンティングシステム

Truepress JET 560HDX

株式会社 SCREEN GP ジャパン 本社/03(5621)8266(代)

〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1 ヤマトネ深川1号館

株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ

www.screen.co.jp/ga

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが
SDGs達成をアシスト



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

RMGT リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
〒726-0002 広島県府中市鵜飼町 800-2 TEL 0847-40-1600

RMGT-CSPIの詳細については、こちらをご覧ください。
<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/cspi/>



お客さまの

「踏み出す力」になる。

価値ある情報、豊富な知見、確かな技術で。

さまざまな現場課題、経営課題を、どう解決するか。
これから進むべき方向性を、どう見極めるか。
その答えは、一つとは限りません。だからこそ、
信頼できるパートナーと共に、ベストな道を選び
たいもの。FFGSは、広範なネットワークを
活かした実践的な情報と、一社一社の戦略や
課題に合った効果的なソリューションで、
お客さまの「最良の選択」をサポートします。
そして、長年培ってきた知見と技術力を
活かし、変革の一步一步をしっかりと支え、
新たな未来へ向け、共に前進していきます。



一緒に答えを導き出す会社へ。

FUJIFILM
Value from Innovation

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社



この印刷物は、CSR
に取り組む印刷会社が
製作した印刷物です。

P-00082



この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

P-B10026